

【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	沖縄のサトウキビ
3	資料名	サーテー車
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	沖縄、生活文化、サトウキビ、サーテー車、製糖、黒糖、砂糖
6	説明	<p>サーテー車（砂糖車）とはサトウキビを搾るための圧搾装置のことで、沖縄では約 400 年前から活用されており、沖縄の製糖業の歴史を語るうえではなくてはならない存在である。</p> <p>その構造は、3 本のローラーを歯車で回転させ、回転するローラーの間にサトウキビの茎を差し込んで圧迫粉碎し、サトウキビ汁を絞り出す。回転させる動力は牛や馬などで心棒をまわして歯車を動かしていた。</p> <p>現在では使われておらず、琉球村などで昔の生活を伝える展示として展示されている。</p> 
7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	*****
9	時代・年	撮影日 :
10	地域・場所	
11	利用条件	表示 4.0 国際(CC BY 4.0)
12	関連資料 1	なし
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	
15	登録日	
16	登録者	宮田璃音
17	ファクトデータ	cricd0191-0217.jpg

18	サムネイル	
19	公開の可否	<p>①製糖法の由来</p> <p>この製糖法は 1623 年、首里王府の役人である儀間真常（1557-1644）が中国から学び伝えられたものといわれている。自家で砂糖製造を始めたことから黒糖製造が広がった。当時、使用されたのは木製の二本式砂糖車だったが、時代と共に石製、鉄製と改良された。</p> <p>戦前までは、あちこちの集落に小型のサーティー（砂糖小屋）があり、その中にサーティー車はあったが、1908 年には、それまでの含蜜糖とは異なる、洋式の分蜜糖（精製糖）工場が新設され、沖縄の製糖業は刷新されることになった。</p> <p>（引用・要約：黒砂糖（くろさとう）工場【サーティー】 施設紹介 おきなわ郷土村 おもろ植物園 各施設紹介 海洋博公園 Official Site. リンク：https://oki-park.jp/kaiyohaku/inst/79/6930. 閲覧日：2025/12/22）</p>
20	*特色	 <p>(那霸市歴史博物館デジタルミュージアム所蔵)</p>

		②近年のサーテー車 砂糖生産が工業化するにつれ砂糖車の使用も廃れていったものの、昭和40年代までは一部で使用され続けていた。現在では、主に琉球村や海洋博公園等でその姿を見ることができる。
2 1	*活用支援	
2 2	*利用分野	教育、生涯学習、地域学習、観光
2 3	*改善結果	
2 4	*処理プロセス	
2 5	機関外リンク情報	
2 6	目標	
2 7	紹介	